世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World
Musashino University
武蔵野大学 学術機関リポジトリ
Musashino University Academic Institutional Repository

地域性を育むストリートファニチャーのデザイン：横浜・吉田町通りにおける提案実践を事例として

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 武蔵野大学建築研究所 公開日: 2024-03-15 キーワード (Ja): ストリートファニチャー, 都市空間, 滞留, 横浜, 商店街, 地域性 キーワード (En): 作成者: 太田, 裕通 メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2000169

地域性を育むストリートファニチャーのデザイン
横浜・吉田町通りにおける提案実践を事例として

Report on the Design of Street Furniture that Fosters the Local Environment
A Case Study of Practice on Yoshidamachi Street, Yokohama

太田　裕通*1
OTA Hiroto*1

ストリートファニチャー　都市空間　滞留
横浜　商店街　地域性

1.　はじめに

近年、我が国でも都市空間のオープンスペースにおけるストリートファニチャー設置等による小さな社会実験の事例や、それを通して街を少しずつ変化させていく戦略的な都市デザイン、手触りのあるまちづくりも多く見られるようになってきた[文献1）2)]。ストリートファニチャーは簡便な屋外家具・ベンチ等であり、その簡易さと同時にそれぞれの地域性を活かしたデザインは容易ではない。また、そのデザインと制作には市民ワークショップや DIY も多いため、デザイン過程や施工・設置に関わる経験の共有は、今後参照できうるものとして求められていると思われる。

本稿は、「第６回 まちを楽しくするストリートファニチャーデザインコンペティション（以下コンペ）」[注1)]において優秀賞を受賞した作品「えんつなぐ」のデザインプロセスの詳細と、横浜市中区吉田町に設置した実施プロジェクトの結果に関して報告するものである。本稿の構成は以下である。2 章ではコンペ・プロジェクトを概観し、3 章でデザインプロセスと制作物の図面、4 章では現地設置結果及び観察調査の成果を報告する。

2.　プロジェクト概要

2.1.　コンペ概要

本コンペは「まちづくりについて地域の皆様と一緒にアイデアを出し、街の活性化につなげる（HP 引用）」ことを目的とし、横浜で活動する企業・団体・個人が中心となった協賛企業の協力の下、2015 年から始まった[注1)]。受賞作品は実作として横浜の街中に仮設的に設置されることが特徴である。第６回目を迎える今回のテーマは「つなぐ」であり、関内･関外地区の「伊勢佐木商店街」と「吉田町通り」を対象敷地として応募提案するものである。本作「えんつなぐ吉田町通り一花咲かすプロジェクト（図 1)」は「吉田町通り」におけるストリートファニチャーを提案したものであり、応募数 184 点の中から一次審査・二次公開審査を経て優秀賞 3 作に選出された。

2.2.　実施までのスケジュール

コンペ提案から現地での実施に至るまでのスケジュールは表 1 の通りである。7 月 29 日（土）の公開審査における審査員及び事務局からのフィードバックを参考に、8 月 9 月で提案内容を大幅に修正した[注2)]。現地の設置期間は 11 月 21 日（火）～12 月 5 日（火）であり、これは 11 月 25 日（土）に開催された吉田町通りのイベントでファニチャーを活用するためでもある。また 11 月 28 日（火）にデザインと制作を行なった武蔵野大学工学部建築デザイン学科「あわい de カタチ」のプロジェクトメンバーによる現地観察調査を行なった。

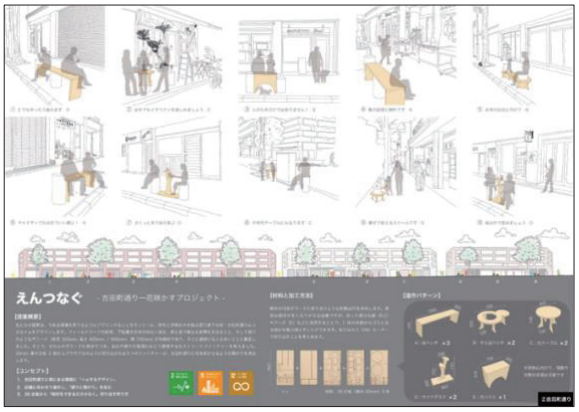

図１　コンペに提出したプレゼンテーションパネル

表１　プロジェクトスケジュール

日程	工程
2023.04~06	敷地調査とデザインエスキス
2023.06.16	コンペ作品提出
2023.07.29	横浜市役所にて公開２次審査
2023.08~10	設計案修正及び図面確認
2023.10~11	制作期間
2023.11.21	吉田町通りにファニチャー設置
2023.11.25	吉田町通りで横浜ジビエフェスタ 2023 開催
2023.11.28	設置式@吉田町通り
	観察調査@吉田町通り
2023.12.05	ファニチャー撤去

*1 工学部建築デザイン学科　専任講師

3.　デザインプロセス

3.1.　コンセプト

①　地域環境の読み取りと応答

横浜市中区吉田町は関外に位置し、野毛町と伊勢佐木町という 2 つの歓楽街を繋ぐエリアである（図 2）。吉田町通りはその真ん中を貫く約 200m の商店街であり、ストリートに面して生鮮食品店や飲食店だけでなく画廊、画材店、写真店などアート関連の専門店も並び、夜になるとバーや飲み屋が賑わう。また年間を通して通り全体を使った様々なイベントが開催されている。通りの南側には 3 棟の防火帯建築（下駄履き住宅）が連なり、いわゆる沿道建築としての防火建築帯の典型的な風景が、街並みを形成している[注3)]。

図 2　吉田町の周辺環境

敷地調査では「下駄履き住宅の味わい深さ」、「店舗と屋外環境のつながり」、「昼と夜で異なる表情をもつ」などを実感し、その中でも親子のような大小２個１の、ボラード（以下親子ボラード）に着目した（図 3）。ボラードは、直径 300mm、高さ 435mm／600mm、間隔 700mm であり、現地では実際に腰掛けている人も多く、既に地域に馴染んでいるストリートファニチャーの存在を確認した。

図 3　吉田町通りの様子

②　地域環境に＋αするデザイン

そこで、「既にある地域環境に＋αする操作」、「店舗に合わせて造作し通りに一体感を生むデザイン」をコンセプトとした。即ち、ボラードに絡まりつき、お店や通りの環境に応じて展開するストリートファニチャーである。24mm 厚の合板からプラモデルのように切り出されるさまざまな形のファニチャーが、吉田町通りにまるで花を咲かせるように配置され、繋がりを演出する（図 1）。

③ 36 合板から端材をできるだけ少なく切り出す

既存の円形ボラードに寄り添うような形態は円を多用することとなる。通常、曲線は端材が多くなりがちなであるが、円形を切り出した際に余った部分も脚や支えアーチなどに活用することで、1 枚の 36 合板からゴミとなる部分を極力減らす設計とした。また加工はレーザーカッターによってほぼ図面通りの部品を出力でき、組み立て及び塗装作業は学生メンバーによる自主施工とした。

3.2.　設計内容と図面

吉田町通りの両側には 18 ヶ所の親子ボラードがあり、町内会との調整でそのうちの 16 ヶ所にファニチャーを設置することとなった。そこで 36 サイズの合板 13 枚から８種類のファニチャーを各 2 つずつ（合計 16 個）設計した。それぞれの図面及び完成象は図 6 の通りである。

各ファニチャーは直径 300mm のボラードを覆うように取り付けられたり、ボラード同士の間に嵌ったり、転倒しないような作りとなっている。各ファニチャーは単体では成立せずボラードとの関係性から機能を発揮する。例えば、ファニチャー1 は小さいボラードに乗せることで荷重を受けとめ、大きいボラードがちょうどサイドテーブルになっている。ファニチャー4 はひょうたん型が子供用の小さい椅子として、ボラードは大人の腰掛けになる。ファニチャー5 はボラードを椅子として間に小テーブルを囲み、街中のテーブルセットのようになる。各ファニチャーの道路側立面は吉田町第一名店ビルから引用した赤色塗装がされ、車道側への注意喚起サインの役目も果たす。また歩道側へは車道へ足を出さないよう注意するサインをデザインした（図 4）。

図 4　注意サイン

3.3.　制作

制作は武蔵野大学建築デザイン学科あわい de カタチプロジェクトメンバーの学生 24 名で行なった。シナ合板 13 枚の内、10 枚をレーザー加工で部材切り出し、残りの 3 枚は丸鋸で切り出した（図 5 左）。レーザーの焦げ面をヤスリ掛け、木材全てに保護塗装、部材同士の結合はダボと木工ボンドで行なった。また地面及びボラードとの設置面にはゴムシートφ3 を接着、また小口にも緩衝材としてゴムシートをつけた（図 5 右）。組み上がったファニチャーには撥水剤をコーティングした。

図 5　自主施工の様子

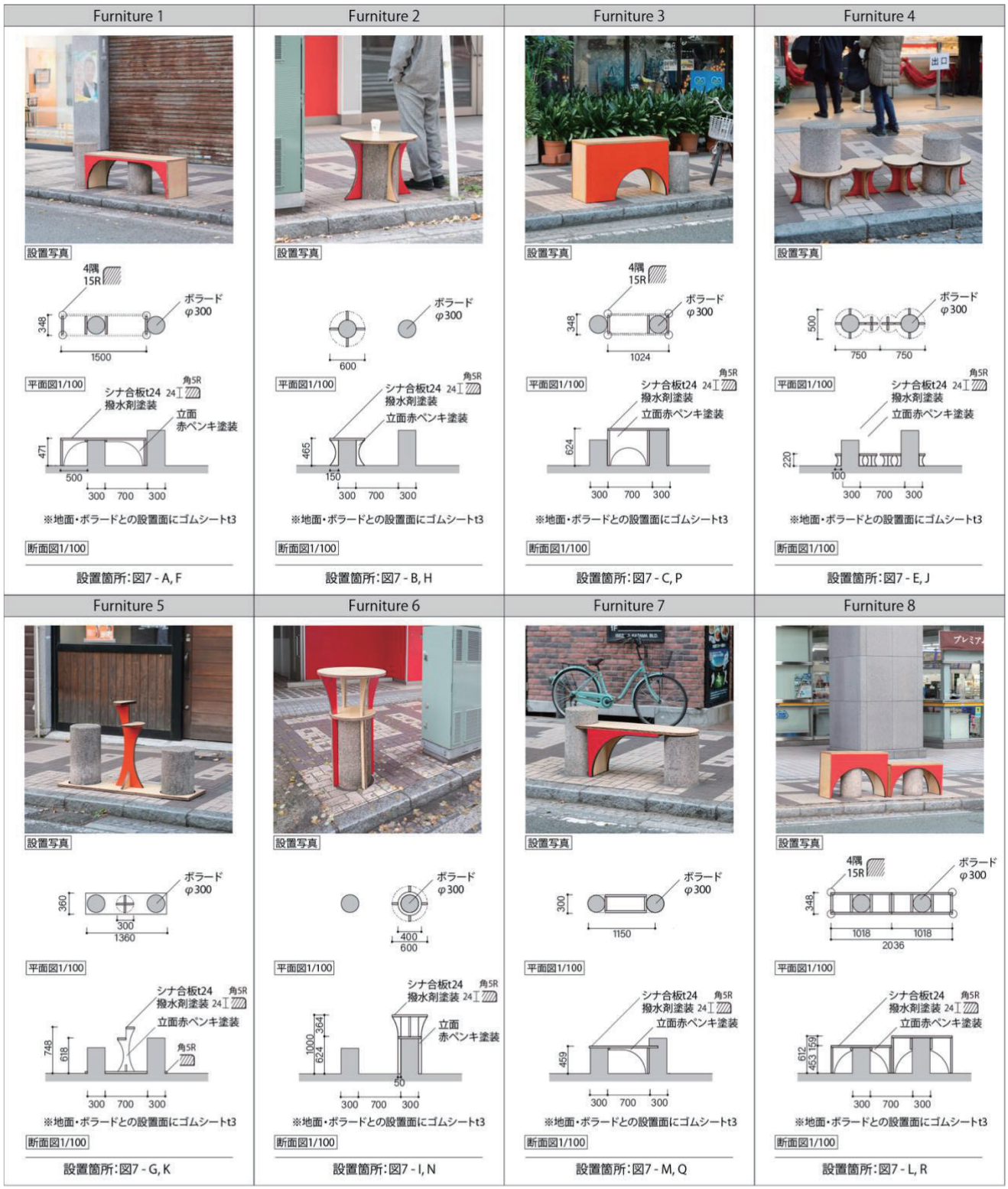

図 6 ストリートファニチャー（８種）の図面

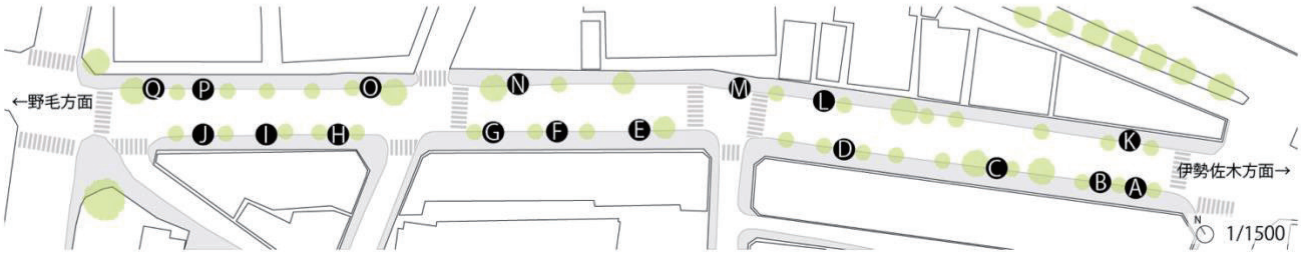

図 7 ファニチャーを設置するボラードの場所（図 6 参照）

4.　ファニチャー設置実践

4.1.　設置

設置作業は 11 月 21 日（火）13 時〜18 時で行なった。ボラードの直径と間隔 16 箇所全て同じであったが、高さは微差があり地面も水平ではないため、ファニチャーとの隙間を埋める作業に時間が必要であった（図 8 左）。また交通量も多く、歓楽街も近いことから通行人がぶつかった際にファニチャーが転倒したりずれたりしないように裏側への固定材をつけるなどの工夫がされている。16 個のファニチャーは図 8 右のように綺麗に収まった。

図 8　吉田町通りへ設置の様子

4.2.　実施結果

設置時間内において早速複数の利用者を確認した（図 9）。特に子どもが自転車を停めて、遊びの延長として座るなどが見られたのが印象的であった（設置場所 N）。またペットサロンの前では施術終わりにペット共に休憩する人も見られた（配置場所 C）。

11 月 25 日（土）には吉田町通りを交通止めしてジビエフェスタ 2023 が開催され賑わい、各ファニチャーも多いに活用された（図 10）。例えば喫煙スペースのベンチとして、時には出展ブースの一部として元からそこにあったかのように利用された。商店街の店主からは「ちっと休めたり、荷物が置けて良い」「通りが一帯的につながる印象があった」などという声や、「お酒やコーヒーが飲みやすい」という理由でファニチャー6（図 5 参照）が評判であった。

図 9　設置当日の使われた様子

図 10　ジビエフェスタ 2023 の様子

表 2　観察調査結果

基本情報		使われ方記録			
設置場	ファニチャー番号	ボラード前店舗状況	滞在時間	利用者属性	行為
A	1	シャッター	14:27~14:28	男性 1 名・60 代	座る・スマホ
B	2	飲食・営業中	14:24~14:27	男性 1 名・30〜40 代・店員	座る・喫煙
			14:31~14:33	女性 2 名・20 代	座る・会話・スマホ
			14:36~14:38	女性 6 名・30〜60 代	店から出てきて立ち話・荷物置く
C	3	ペットサロン・営業中	14:40~14:45	女性 1 名・20 代	座る・スマホ・待ち合わせ？
D	4	テナントなし	なし		
E	1	画材屋・営業中	14:51~14:51(1 分以内)	男性 1 名・20 代	座る
F	5	飲食・営業前	14:49~14:49（1 分以内）	男性 1 名・30〜40 代・会社員？	荷物置き・電話中
G	2	テナントなし	なし		
H	6	八百屋・営業中	14:36~38	男性 1 名・40 代	商品の受け取り待ち・荷物置く
I	4	肉屋・営業中	なし		
J	5	飲食・営業前	15:25~15:26	女性 1 名犬 1 匹・40〜50 代	座る・犬の散歩中
K	8	飲食・営業前〜営業開始	14:52~14:52(1 分以内)	女子 2 名・小学生	ファニチャーにタッチ・遊び
L	7	商業ビル	14:30~14:44,14:49	男性 1 名・30〜40 代	座る・待ち合わせ・スマホ→商業ビルに入り待ち合わせ相手と合流→バイク
M	6	飲食・営業前	15:41~15:41(1 分以内)	男子 1 名・小学生	遊び・下校グループ数名と話しながら
N	3	花屋・営業中	なし		
O	7	コンビニ・営業中	14:30~14:30(1 分以内)	男性 1 名・40 代・会社員？	バッグを置いて中身確認
			14:40~14:45	男性 2 名・60 代？	立って会話→座って会話・スマホ
P	8	コンビニ。営業中・信号	14:43~14:49	男性 2 名・50 代？	1 人が座り・1 人は立つ・会話・スマホ
			15:30~15:35	男子 3 名・小学生	1 人が座り信号が変わるのを待っている→もう 1 人が合流→さらにグループが合流し離席

4.3. 観察調査

図 11　観察調査の様子

11 月 28 日（火）14 時 30 分頃～15 時 45 分で使われ方の観察調査を実施した。調査者 19 名で、ファニチャーを設置した 16 カ所に分かれて定点観察を行なった（図 11）。当日は冬季の強風（風速 9m）の中、75 分の調査にもかかわらず 16 の利用行為を記録することができた。その一覧が表 2 である。

例えば配置場所 B は飲食店（イタリアン）の前であり、店員の休憩や、ランチ利用者の荷物置きとして利用された。また L では男性一名が待ち合わせに 15 分以上利用したり、H では配達員が束の間の荷物置きに利用したりする他、O ではコンビニ前で 2 名が立ち話した後に一緒に腰掛ける様子も観察できた。また吉田町通りは近隣小学校の通学路にもなっており、下校中の子どもたちの遊び環境として利用される例も複数見られた。K では 2 名の児童が歩きながらファニチャーにタッチして遊んだり、M では 1 名がボラードに足をかけて登ろうとして友達と笑い合って遊んだり、P では下校中の子どもたちが信号待ちやグループの合流地点として使われる様子が観察できた。

設置時期は冬の肌寒い季節であったため、長時間滞在する人は少なかったが、観察で見られたような複数人で腰掛けて会話や荷物置きとしての利用、子どもたちの遊び環境としての利用は本ファニチャーを設置した結果生まれた現象であると思われる。また店舗に応じた設置とそれに伴う利用風景、また通りを使ったイベント時における活用などは、吉田町通りならではのストリートファニチャーと言えるのではないだろうか。

5.　まとめ

本稿は、「第 6 回 まちを楽しくするストリートファニチャーデザインコンペティション」において優秀賞を受賞した作品「えんつなぐ吉田町通り一花咲かすプロジェクト」のデザインに関して、着想からコンセプト、図面および施工方法に至る一連のプロセスの詳細を明らかにし、横浜市中区吉田町通りに設置した実践結果を報告した。設置直後から複数の利用者が見られ、期間中に開催された吉田町通りのイベントでも各ファニチャーが多いに活用された。使われ方の観察調査では複数人で腰掛けて会話や荷物置きとしての利用、子どもたちの遊び環境としての利用など、本ファニチャーを設置したからこその結果も確認した。また数名の店主からは好評のフィードバックが得られた。実際、町内会では 2024 年に再設置が検討されており、これは地域から一定の評価が得られている証左とも言える。

元々地域の人々が軽く腰掛けるファニチャーとして機能していたボラードに＋αするデザインによって、座るという行為のバリエーションの増加だけでなくそれ以外の行為を誘発することができたと思われる。

今後、より暖かい時期の再設置を通して長く滞留する人々や多様な使われ方のパターンも期待できる。コンペ受賞作のファニチャー設置という一過性のイベントに留まらずに、日常的に都市空間に手触りのある居場所づくりを目指して活動を続けたい。

謝辞

現地での設置及び制作に関して、ストリートファニチャーコンペ事務局及び株式会社キクシマ様にサポートいただき、設計施工は武蔵野大学工学部建築デザイン学科「あわい de カタチ」プロジェクトメンバー（設計：8 名、施工：24 名）によるものである。ここに記して謝意を表する。

注釈

1）　コンペの公式HP：

https://streetfurniture.jp/　（閲覧日2024年 1 月 4 日）

2）　具体的には、コンペ提案時点では吉田町通り南側に10個（５パターン×２）のストリートファニチャーを設置する案であったのを、通りの両側に16個（８パターン×２）へと増やした点、ファニチャーに着色をするなど通り全体での繋がりと視認性を高めた点、などである。

3）　文化庁ＨＰ：

https://www.bunka.go.jp/kindai/kenzoubutsu/research/kanagawa/005/index.html（閲覧日2024年 1 月 4 日）

文献

1）　泉山塁威，タクティカル・アーバニズム: 小さなアクションから都市を大きく変える，学芸出版社, 2021

2）　園田聡，プレイスメイキング: アクティビティ・ファーストの都市デザイン，学芸出版社, 2019